親の背中を見ています・・・

仕事が忙しくて、子供にかまっている時間がないという話を聞きます。家族のためにがんばる姿に、子供は確かな愛を感じています。

八代小学校 学校だより

平成 27 年 3 月 11 日　NO１３

六年生、ありがとう。私たちが引き継ぎます。

三月十日（火）のお別れ遠足は、前日の雨による公園のグランド状態と五度を下回る寒さから、やむを得ず、校内の遠足に切り替えました。しかし、六年生の児童会役員からバトンパスされた五年生の新児童会役員の計画と進行により、温かく楽しいお別れ遠足になりました。

この一年を振り返ると、六年生は、職員室や校長室を中心に、ひたむきに掃除に取り組む姿や気持ちのよい挨拶をする姿が印象的でした。

この六年生を慕う気持ちが現れた各学年の発表に、六年生は心を動かされたのではないかと思います。卒業式には下級生を代表して、五年生だけが参加しますが、いい卒業式になるな、子供たちはいつの間にか、しっかり成長しているなと実感した一日でした。

ピンチをチャンスに変える

よい行いをしたときに、笑顔で子供をほめます。子供は、親の喜ぶ姿を見て自分の行いがよかったことを知り、また喜ばせようと努力します。しかし、子供たちは、よい行いばかりをするわけではありません。がっかりするような悪いことをしてしまうのもまた子供です。思わず頭を抱えますが、そのままには出来ません。まさしくピンチです。そのときに、子供にどう接するか。そのときの接し方で、子供は親を拒否したり、また逆に更に親の愛を感じたりします。しかるときの接し方の工夫で、ピンチをチャンスに変えることができます。

長年、子供やその保護者の方々に接する中で、感じていることがあります。

決して感情的になったらいけないということではありません。悪いときには腹も立ちます。そのときに、冷静な顔で話は出来ません。出てくる涙を堪えず、親としてその行いが許せないこと、悲しいことを伝えるべきでしょう。

今まで出会った保護者の方に印象深い方がおられます。その方は、何がいけなかったのか、この後どのようにしていかなければならないのか、そのとき一緒に考えられます。つまり、子供と対極に位置するのではなく、同じ目標を持ち、共に歩もうとする姿勢を見せられます。そんな親の姿を見たら、親の深い愛情を感じることでしょう。前向きな気持ちにもなるでしょう。謝らなければならない相手がいる場合、子供に、親も一緒に謝罪する姿を見せることが効果的と言われるのは、このような意味からだと思います。

学校も、子供たちの健やかな成長を願う仲間です。悩みと喜びを共有していきましょう。